

公立高校入試が終わりました！

3月3日（木）4日（金）両日、公立高校の入試が実施されました。みんなはこれまで懸命に受験勉強に励んできたはず！あとは自分の発揮したちからを信じて結果を待ちましょう！

さて、これまでとても苦しい日々を過ごした人もいたことだと思います。身の回りにある漫画やゲームやテレビなどの誘惑と戦いながら頑張っているのに、勉強しても勉強しても思うような結果を出せずに焦った人もいたでしょうし、時にはどうしても勉強する気が出せずにボーッとしたり、大声を出したりしたくなったりした人もいたでしょう。それなのに周りからは「受験生なんだからもっと勉強しなきゃ！」とプレッシャーを掛けられ、さらに逃げ出したくなったりしたことがあった人がいたかもしれません。

しかし、これらの経験はとても重要な事だと思うのです。これからのみんなの人生において、今回以上のプレッシャーと戦いながら何かを成し遂げなければならないことがたくさんあるのです。みんなにとっては初めての経験で、とても苦しかったかもしれないけれど、なんとか乗り越えてきたことに自信と誇りを持って、これから遭遇するであろうたくさんの困難を一つひとつ乗り越えていこう！



もうすぐ卒業式！

卒業式

■不思議な言葉「さようなら」

世界の中でも日本の「さようなら」は変わっているのだそうです。海外では、別れの時の言葉に「Good bye(God be with you)」：相手の無事を祈る、「See you later」「再見(サンチェン)」：再会を願う、「Farewell」：相手の健康を気遣うなど、言葉に具体的な意味合いが含まれています。

それでは、「さようなら」にはどんな意味があるのでしょうか・・・？

さようなら、この言葉の中に、無事を祈ったり、再会を願ったり、相手の健康を気遣うような言葉が含まれているとは思えません。では、「さようなら」ってどんな意味でしょうか？

■もともとは

「さようなら」は、もともと「そうであるならば」という意味で、「さらば」「さようならば」として、前の文章と後ろの文章をつなげる接続詞だったそうです。この接続詞が、別れを含んだ表現の中で、多く使われるようになり、だんだんと別れの意味を持つようになり、更に「さらば」「さようならば」の後ろにある「別れの文章」が省略され、後に続く言葉がなくなり、ついには「さようならば」の「ば」も省略され「さようなら」になったというのです。

鎌倉女子大学の竹内整一先生は、「さようなら」を別れの言葉として使うのは、日本人が、別れを「いったん立ち止まり、確認して新しい世界に臨もうと身構え、覚悟する節目」と考えており、「今までは〇〇だったから、そういうことであるならば、××しよう！」といった、決然とした思いや祈りにも似た願いが「さようなら」という言葉には込められていると解説します。

■いつものさよなら、卒業式のさよなら

ということは、「さようなら」の5文字の中には、その言葉を使うお互いの関係や、場面によってさまざまな意味が含まれるということになります。って書かなくても、みなさん何となくわかりますよね？例えば・・・

いつものさようなら：今日も1日、中学校で頑張りましたね、それならば明日もしっかり頑張らしましょう！！

また明日、中学校で会いましょう。

卒業式のさようなら：中学校3年間よく頑張りましたね、溝辺中学校を卒業しても将来に向けてしっかり頑張ってください。お元気で！！

■思いを込める

「さようなら」という言葉は、声をかける人、声をかけられる人が互いを思い合う言葉なのではないでしょうか。「さようなら」の5文字に込められた思いを互いに理解し合える。そんな瞬間って素晴らしいと思いませんか？

お互いを思いやる、そんな瞬間を積み重ねることで、人生が豊かになっていくのではないのでしょうか？

『ずっとずっと』

いつも私はお母さんと喧嘩ばっかしてた。

いつもお母さんに頼って生きていた私は、目覚まし時計で起きれず、お母さんに起こしてもらってるのだが、時々起こすのが遅い。そういうときも全部「早く起こさねえのがわりいんだろ！」とか言ってた。お母さんも言い返してきて「だったら自分で起きなさい！」とか言って喧嘩。

一回警察に呼ばれたときもお母さんにすげえ怒られたし、家に帰るのが遅いとわざわざ探しだして友達がいるのに連れて帰られるし、ぶっちゃけ自分はそんな母親が大きらいだった。

ある日、ちょっと大きい喧嘩をした。

母：「何であんたはおにいちゃんと違って何も出来ないの？もうちょっと子供らしくしなさい！」

自：「あんたのせいなんだよ！兄ちゃんは私立行かせるのにうちには行かせてくれない！いつも仕事でろくに授業参観にもこない！いつもうちを保育園で一人ぼっちにさせて、母親づらしてんじゃねえよ！あたしはあんたの事を母親だなんて思ってねえよ！」「あんたの事、もう母親だと思ってねえよ！」

この一言を聞いたとたん、いつもは口うるさいお母さんが黙った。言い過ぎたかなとは思ったけど、それはそれでもういいと思った。どうせ愛されてない子供に言われただけなんだから。そう思った。すごい勢いで自分の部屋にこもると、少しお母さんのことが気になった。ちょっと様子を見てみよう・・・

お母さんが泣いていた。あんなに強い母が泣いていた。そして独り言でこんなことを言っていた。

「私のせいだ・・・」

目頭が熱くなった。こんな母親見たことない。見たくない。すぐに部屋に戻った。気分転換にテレビでもみようか・・・全然おもしろくない。そういえばまだ見てないビデオ録画したのあったな。そうやってビデオ探すと、お母さんの文字で私の名前が書かれたビデオがあった。なんだろうと思って見てみた。

そこには、幼い頃の私が微笑んでる母親の腕の中に抱かれていた。ビデオの中のお母さんはとてもやさしい顔をして、なんどもなんども私をビデオに写して、なんどもなんども私の名前を呼んでくれていた。そしてビデオの中でこんなことをいっていた。

「大すきよ。多分私の子だから何度も反抗するでしょうね。だけど、あなたは私の大好きな子よ。ずっとずっとね。」

何年間も流してない涙が自然と出てきた。

その日私は、やっとお母さんに「ありがとう」と言えた。